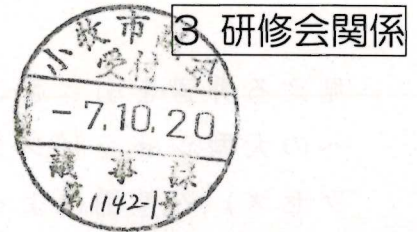


研究・研修報告書



令和 7 年 10 月 16 日

小牧市議会議長 様

会派名 公明党小牧市議団

代表者氏名 加藤 晶子

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

加藤晶子、星熊伸作、佐藤早苗

2 日程

令和 7 年 10 月 9 日（木）～10 月 10 日（金）

3 研究・研修名

第 87 回全国都市問題会議

4 主催者

全国市長会

5 会場

ライトキューブ宇都宮

6 受講の目的

人口減少・少子高齢化に伴う持続可能なまちづくりを学ぶため

7 主な内容

成熟社会の都市のかたち～コンパクトで持続可能なまちづくり～

8 所感・提言・課題等

近年、大都市をのぞいた地方圏の都市においては、都市空間の際限のない外延的拡大と、それと並行する形での主に都市中心部における低密度化である。いわゆる都市のスポンジ化と呼ばれる事態が生起している。

都市空間の拡大と低密度化の進行は、医療・福祉、商業サービス等の縮小・撤退や、公共施設、水道・交通インフラといった行政・公共サービス提供の非効率化といった行政・公共サービス提供の非効率化といった目に

見える弊害を引き起こしている。郊外優位の確立は、民間企業による郊外への大型ショッピングセンターの立地と、それを結節する道路網（交通アクセス）の整備によって都市空間においては自家用車を利用すれば生活の大部分が郊外のみで完結できるような都市構造が連綿と構築されてきた。

それに連動するように、中心市街地での商店街や百貨店の衰退・空洞化が進行してきた経緯がある。

そのような時代背景の中、今回の主催地である宇都宮市では、NCC（ネットワーク型コンパクトシティ）の形成を目指している。

NCC は、中心部の都市拠点に広域的な求心性を高め魅力創出につながる都市機能を集積する高次都市機能誘導区域を定めるとともに、その周辺や鉄道駅の周辺などに都市機能誘導区域や、市街化調整区域の地域拠点を定め、誘導施設の新築・建替え費用の一部助成などにより、幅広い都市機能の誘導・集積を図っている。また、高齢になっても公共交通を使いながら安心して便利に暮らし続けることができるよう、公共交通の沿線などの利便性の高い地域に居住誘導区域を定め、居住密度の維持向上を図っている。

さらに移動時の利便性向上に資するよう、令和 5 年 8 月次世代型路面電車「ライトライン」を開業させた。

JR 宇都宮駅東側を中心に整備をし、通勤・通学・買い物など市民の足として大いに利用されている。

ライトラインの総利用者数は、令和 7 年 8 月 19 日時点で当初の予測よりも約 6 ヶ月早く 1,000 万人に到達した。

現在では、1 日約 1 万 7,000 人から 1 万 9,000 人となるなど、地域の移動手段として定着している。

また、ライトラインの整備効果として、沿線の人口が平成 24 年と比較して令和 6 年には、約 10% 増加し住宅地の地価は約 14% 上昇し、必然的に税収もあがっている。

計画的なインフラ整備の構築から、利便性の高くなるよう居住誘導地域を定め人口流入を狙う試みは大変学ぶものがあつた。

将来、抜本的なインフラ整備を検討してくならば、そこには莫大な費用が掛かり本市だけでは、取り組む事は困難だと予想される。

近隣市町と協力しながら、広域的に取り組んでいくことが、重要であり利便性の高い地域を結ぶ、地域の足としての地域活性化を望む。

一方で公共施設の老朽化に伴う再編には、修繕の為の多額の費用と人材確保が至難を極める。

3 研修会関係

加速する人口減少を鑑みると、施設利用の観点から統合や廃止について、喫緊の課題として取り組んでいかなければいけない。

重点的に公共施設マネジメントを図り計画的に取り組んでいく必要がある。

利用頻度の高い施設は維持修繕を的確に行い長寿命化させる必要があるが、利用頻度の低い施設は最低限の維持をしながら近い将来に応じた保全計画をたてることも視野に入れるべきである。

これにより施設の長寿命化や統廃合の可能性に向けての住民、議会、庁内の合意形成に向けての議論の材料を用意することが出来るようになる。

例えば本市では、篠岡地区における学校再編について議論されているが、統廃合に関しては廃校となる学校建物について、教育機関としての役割が終了すればすぐに解体するのではなく、別の使い道で市民のニーズに合わせた公共施設として機能を保って維持管理することも可能であると思う。

小学校の建物は、比較的地域住民にとって歩いて通えるような身近な施設として存在しているので、有効活用は十分に考えられる。

今後のまちづくりのキーワードとして「縮充」を図る上で、新しく施設を建設するのではなく、今ある公共施設を長期的に利活用していく事を期待する。

